

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 3027 号	氏名	下山 英明
論文審査担当者	主査 田中 和生 教授 副査 村上 雅彦 教授 副査 末木 博彦 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>本研究は、近年様々な疾患との関連が明らかとなってきた腸内細菌に着目し、腎癌、尿路上皮癌患者における癌種別、転移有無による腸内細菌叢の比較検討である。また、様々な癌種において予後予測因子とされている好中球リンパ球比 (neutrophil to lymphocyte ratio: NLR) や血小板リンパ球比 (platelet to lymphocyte ratio: PLR) により腸内細菌叢に違いがあるかを検討した。腸内細菌叢の解析は 16S リボソーム RNA 遺伝子の解析により行った。腎癌と尿路上皮癌の比較では <i>Clostridiaceae</i>, <i>Verrucomicrobiaceae</i> で有意差を認めた。上部尿路上皮癌と膀胱癌の比較では, <i>Prevotellaceae</i>, <i>Lachnospiraceae</i> で有意差を認めた。尿路上皮癌の転移有無別では <i>Peptostreptococcaceae</i> で有意差を認めた。PLR\geq210 と PLR$<$210 の比較では <i>Rikenellaceae</i>, <i>Veillonellaceae</i> で有意差を認めた。転移性腎癌・尿路上皮癌では転移なし群と比較して腸内細菌叢の多様性が低下していた。</p> <p>本研究において腎癌、尿路上皮癌という癌種、転移の有無で腸内細菌叢の構成に違いがあり、さらに免疫状態によっても腸内細菌叢に変化があるということが判明した。これは病態や疾患発症のメカニズムを解明する一助となるほか、糞便移植などの手法により疾患の発症予防や治療にもつながる可能性を秘めている。</p> <p>以上の点で本論文は新しい知見を得ており、学術上価値あるものと考えられた。</p> <p>論文題名：腎癌および尿路上皮癌患者におけるバイオマーカー探索のための腸内細菌叢の研究</p> <p>掲載雑誌名：昭和学士会雑誌 第 79 巻 第 4 号 2019 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)